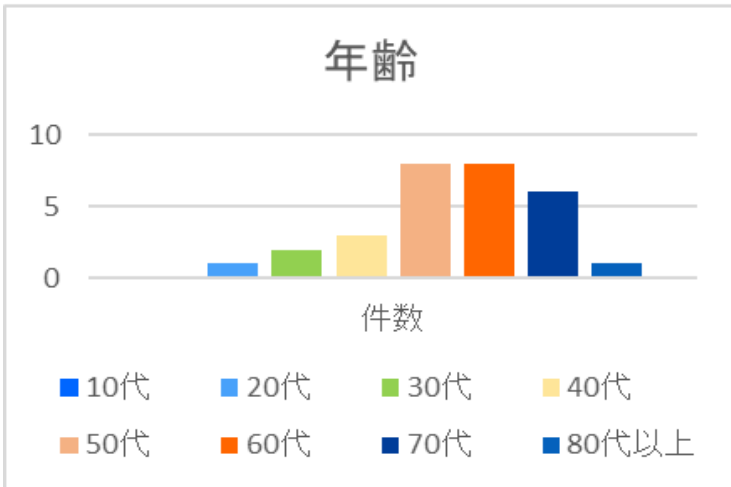
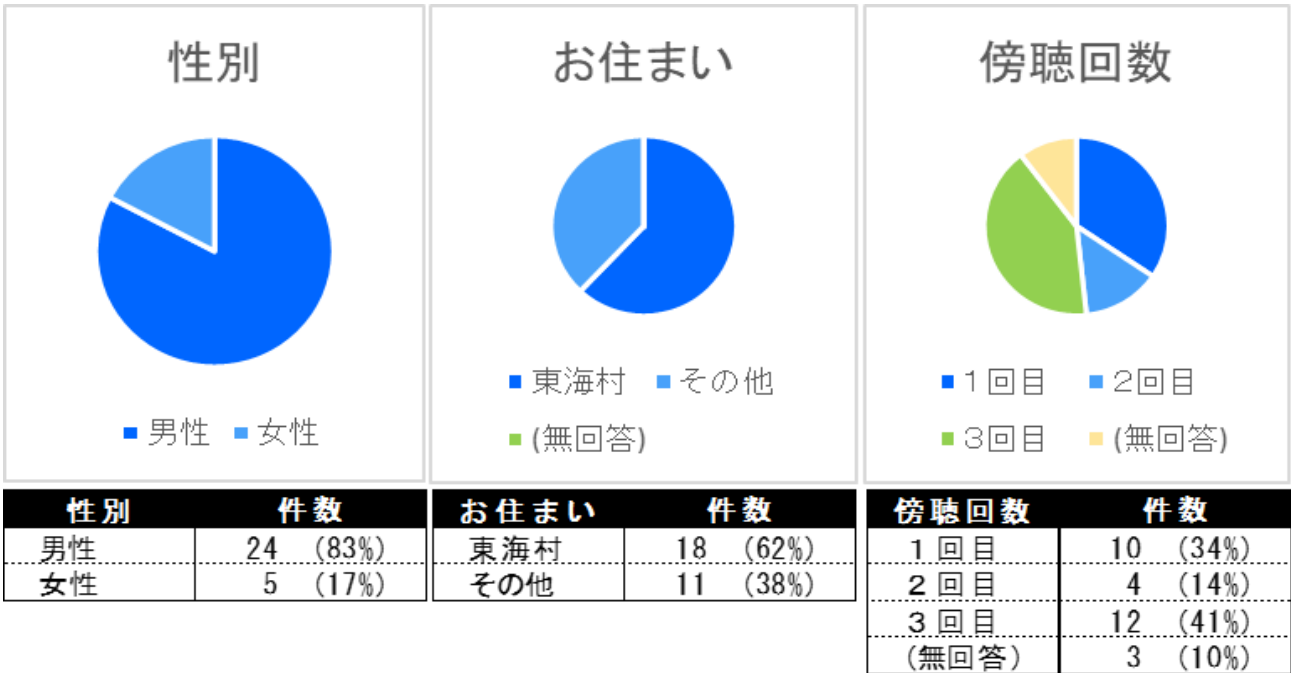
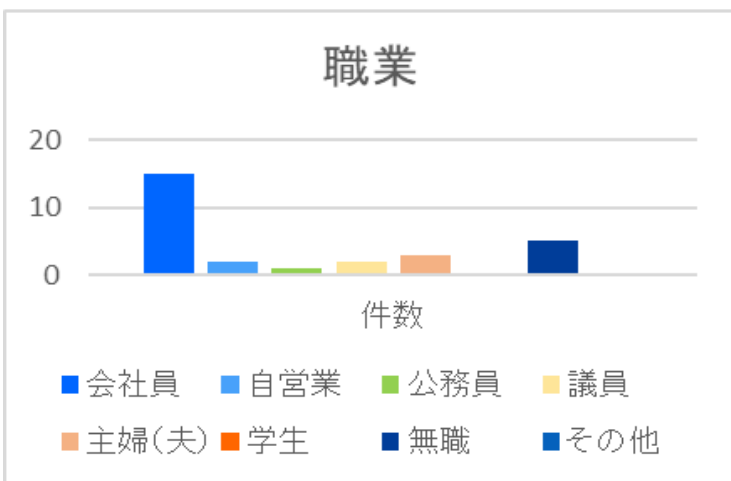


第3回 東海村「自分ごと化会議」アンケートまとめ（傍聴者）

回答数：29 件



年齢	件数
10代	0 (0%)
20代	1 (3%)
30代	2 (7%)
40代	3 (10%)
50代	8 (28%)
60代	8 (28%)
70代	6 (21%)
80代以上	1 (3%)

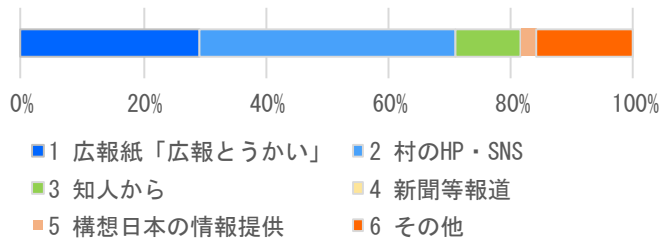


職業	件数
会社員	15 (54%)
自営業	2 (7%)
公務員	1 (4%)
議員	2 (7%)
主婦(夫)	3 (11%)
学生	0 (0%)
無職	5 (18%)
その他	0 (0%)
(無回答)	1 (4%)

1 東海村「自分ごと化会議」を何で知りましたか。

1 広報紙「広報とうかい」	11 (29%)
2 村のHP・SNS	16 (42%)
3 知人から	4 (11%)
4 新聞等報道	0 (0%)
5 構想日本の情報提供	1 (3%)
6 その他	6 (16%)
総数	38

※複数回答可能なため、回答者数と総数に違いがあります。

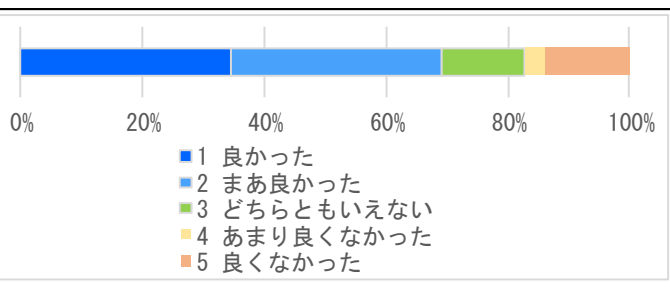


【その他の回答】

- 興味があったから
- 会社

2 第3回東海村”自分ごと化”会議について、どう思われましたか。

1 良かった	10 (34%)
2 まあ良かった	10 (34%)
3 どちらともいえない	4 (14%)
4 あまり良くなかった	1 (3%)
5 良くなかった	4 (14%)
総数	29



「第3回東海村”自分ごと化”会議について、どう思われましたか」の回答理由

- 多くの人が避難のことについて考えている様子がわかった。
- 避難計画について、実効性がなくてもとりあえず決定して、改善していけばよいという意見があったが、実効性がないものをあたかも実効性があるかのように決定するのはおかしい。民間企業でもそんなことをすれば社会的に批判をあびる。
- 司会者とのやりとりばかりで討論、対話が無い。対立する意見のやりとりがなければ深まらない。やはりこのやり方はだめだ。司会が意見誘導しているし、しゃべりすぎ。
 - ・ 避難計画の話が深まらない。司会者があまりに勉強不足。
 - ・ 実効性が大事だという前提が参加者に共有されていないため、のんきな印象を受ける。
 - ・ 原発と原子力とがごっちゃになっている。原発の問題が整理されていない。
- 村の政策（避難計画等）について知ることができた。
- 参加者が議論を通して、生活の中で原発を自分ごとにしていくことが感じられた。
- まちづくりや原子力の課題について、考える機会、知る機会があるのは良いと思ったので。
- 一つ一つのテーマに対して活発に意見が出て、それらをコーディネーターが整理しながら議論を進めていたので、パネリストも話しやすかったと思いますし、傍聴者もわかりやすかったです。

- 原子力事故があって 10 年経っても避難計画が公表されないのは違法？速やかに策定されるべき計画を放置しており、住民軽視ではないか。
- まず、Zoom オンライン開催は良い。欠席者が少なくできる。傍聴者も Zoom 参加できるようにして欲しい。
参加者から「次回に提供して欲しい情報」と「次回に議論したいテーマ」をしっかりと聞いて決めるべき。ちょっと構想日本の伊藤さんが決めすぎのような気がします。
- コーディネーター（ファシリテーター）が優秀。
- 1. 避難の議論は深まらなかったと感じた。なぜか。
 - ①避難を「自分ごと化」していない。訓練参加者ゼロ！
 - ②発言に遠慮がある。
- 2. 計画（案）→（案）をとるにはどうしたらよいかの意見を聞きたい。
- 3. 行政の広報は住民に届いていない。住民は「自分ごと化」できない。
- 4. まちづくりにはノーアイデア？原子力のとがったまち→ビジネスには疑問。
- もう少し。現実論からの対策。
- 他の人の意見を聞いたこと。
- 住民との対話は重要であると考えます。
- 避難計画について伊藤氏が「再稼働するしないに関わらず」と言ったのは認識が誤っている。再稼働するしないで事故の可能性が全く違ってくる。
- 水戸地裁判決で指摘は何か？という質問に対して、村の回答は東海村限定で、コーディネーターは、その限定回答に沿って進行していたので噛み合っていない感がありました（コーディネーター自身が、地裁判決内容を知らなそうでした）。
- 多くの意見を積極的に聞いている。
- 回を重ねることに議論が深まっているように感じた。
- 前回より参加者の発言が多かった。参加者も個人の言いたい事がよくまとまって発言が出来ていた。
- 司会者のリードで多くの方の意見を聞くことができた。
- 建設的な意見が多く、参考となることも多々あった。
- 参加される方が、もう少し原発、広域避難について勉強して来てほしかった。もっと細かな事や聞きたい事、進展した事等確認したかったです。
- 村長のいう「住民の意向把握」の参考にするという考え方に立つならば、あまり役に立たないのではないか。住民の「総意」がどこにあるかを把握するのが大事なので、そのためにはこの方法では充分ではないと思う。
- 生命を守るための実効性ある避難計画とは何なのか等の意見交換をすべきと思うが。
- 各自がそれぞれ意見を言える仕組み。
- 前回の振り返りと説明が長すぎる。避難計画についても、PAZ、UPZ の区分や避難先や避難訓練については傍聴者すら周知の事実。参加者なら、資料の事前配布で周知しておくべき。意見交換、議論をもっと深めて欲しい。
参加者のレベルが低い。地区の避難計画説明会の自治会長たちの方がよほど自分ごととして

考えている。

川又さんとの応答は「自分ごと化会議」ではなく「広域避難計画住民説明会」です。「早く確定せよ」にミスリードする司会の広域避難計画に対する認識に問題があると思った。

- 会議出席者の議論が深まっている。皆さん、良い勉強している様子が伺われる。村の代表的意見として採用できるレベル。

3 その他、東海村「自分ごと化会議」についてのご意見、ご感想などがありましたらご記入ください。

- 傍聴者アンケートを前回提出したのに、その意見がまとめて反映されていないという傍聴者の意見を聞いた。半面、茅野先生の発表の批判は多く反映されている。まとめにかたよりがあ
るのではないか。
- 参加者が、自分と違う考えに耳をかさない姿勢が、アンケートから見られる。これは根本的に問題だろう。前回のアンケートから、茅野先生をかたよっているという人が、自分のかたよりに気づこうとしていない。えらそうだ。
原子力関係者だらけで、原発推進の話が多く、その点で一方的である。再稼働に反対の人の意見をきちんときく機会がないとまずいだろう。
- 村民の意見を聞くことが出来、有意義であった。
- 防災にしても、これからのまちづくりにしても「原発」抜きには語れない地なのだと思います。そのためにもっと「原発」「原子力」について知ることが第一歩だと思いました。
- 行政感覚と住民感覚の差があるので埋め合わせるためにやっても良いと思う。
- アンケート回答にもどなたか出していたが、住民が一番不安に思っている「重大事故の発生のリスク」と「事故による被ばくや汚染のリスク」や、福島のように「帰宅困難地域になってしまうリスク」がどうなのかを情報共有が不可欠だと思います。加えて、これらのリスクを理解するために「一般社会の中での各種リスク」との比較の説明が必要です。
傍聴者や一般の方々からも「改善提案シート」を募集して欲しい。
- 議論が発散していないことが逆に良い。好きに話せる雰囲気づくりは良い。
- 1. 参加者が無知では議論が進まないと思った。
2. 「実効性のある…」と言うが、何でも実行できる。「やるか／やらないか」住民はやりたくないのではないか？
3. メンバーの考えが若い。経験を積んだ者の考えが必要ではないか！
4. 海へ逃げる避難計画はありえないのか。考えてはどうか。
5. 大企業が必要と思う。中小企業では魅力ないのではないか。働くまちは期待うすい。住むまちに期待したい。
- そして将来に向けての本質論。本来の東海村らしさの生き方。
- 村民の共通認識をどのようにまとめるのか難しいですね…。
- もう少し、住民の方々の話しの比重を多くしたほうがいいのかと思います。

- ①会議の動画をネットに公開してほしい。(リモート出席者がいて全て撮影しているのだから簡単にできるはず)
- ②避難のことにについて知見を共有している有識者の話が必要だったと思う。
- ③次回東海第二の再稼働が安全か危険かということを議論してほしい(両方の立場の有識者の話を聞いた上で)。
- あくまで、自分自身のアンケートに限定しての意見ですが、第1回分(第2回配布)は、記入に忠実に記載されていて良かったと思いますが、第2回分(今回配布)は、削除や不忠実な意識になっているように見えました。本会議は信頼性が命ですから、忠実な記載であるべきと考えます。
- 時間が限られている中、難しいでしょうが、全員に意見を聞いてもらいたい内容も多々あった。行政の回答がズレていたり、簡潔でなかった。
- 計画策定の基本(考慮すべき)は複合災害。道路破損等があれば車での移動は不可能。その点を課題にしないのか。最大風向頻度は北東(=計画避難方向)であり、風向により被ばくの影響は異なる。モニタリング情報の把握及びそれら情報の通報体制の想定がない。原子力のまちづくり、原発の存在は福島事故を知ってほしい。これなくして意味なし。
- 広域避難について、知らない人が多いことにおどろきました。もっと避難計画も(案)であっても、村内色々な所だめにつくように配布すべきだと思いました。そうすればもっと村民の意識が変わると思います。
- 無作為抽出の方法による人選は、村の人口構成(産業構造・就業構造)に左右されると考えられるので、必ずしも、多様な意見を持つ人たちの集まりにはならないと思います。最も公平のように見えて、そうでないのではないか。
- 参加者の中で再稼働が容認派と思われる方の意見を読みました。勉強不足を感じます。カーボンニュートラルの観点から、原発はCO₂を出さないと言いますが、温排水がどれほど海水を温め、そのせいで海藻類の生育に悪影響を与え、結果CO₂の抑制にはマイナスです。又、SDGsの観点からは、稼働すれば核のゴミが出、その処分と時間を考えれば、SDGsの考え方に全く逆行しています。街作りの中に「原子力」を考えること(医療・工学)での活動は否定しません。原発は別次元という考え方をして下さい。
第5次エネルギー基本計画が発表されました。再生可能エネルギーの割合が36%と、グッとふえ、原発は22%と言いながら、現在の6%がやっとなです。
現実論で見ると、気候変動の時期にあっても、東海村を含む那珂台地はさほど風水害の被害は少ないので、耕作放棄地等、もちろん耕作農地にも、農地法の改正補助金によって、その土地の上に2~3mの支柱を立て、その下で花や野菜等の栽培をする。大消費地にも近い市、農作物の地産地消とのメリットもあります。もちろん、若者の就活、就労にも力を入れ、20年、30年後を見すえた村作りを考える時期です。大所高所に立った村作りを考えましょう。